

以下のような質問がありましたので回答します。また、講義の際に「20年度の税収が過去最高だったのはなぜか」というご質問もありましたので、これについても補足します。

頂いた質問

「Go to Travel や Go to Eat が再開されるとするといつが最適時期なのか。
コロナが収束してからといってもいつになるかわからないし、それまでに多くの対象店が
廃業に追い込まれる可能性がある」

(答え)

1. 対面サービスが自由になっても感染リスクが小さくなった時が最適だと思いますが、それがいつになるのかは誰も分らないと思います。

2. そもそも私は、GoTo キャンペーンそのものが必要かどうかについて疑問があります。

(1) 苦境にある飲食店や旅行関係者を救済するのが目的であれば、理論的には「関係業者の需要を増やす」よりも「関係業者そのものに助成する」ほうが効率的だとされています。需要を増やすような政策を取ると「本来は対面サービスをするつもりがなかった人」の分まで需要が増えるからです。

よって、GoTo キャンペーンの予算を使って、関係業界に助成金を支給する方がいいと思います。

(2) コロナが収まれば、自然に対面サービスも復活するはずですから、それ以上の需要を無理に産み出す必要はないと思いますので、GoTo キャンペーンは不要だと思います。

講義の中で出た質問

「経済が停滞しているのに、20年度の税収が過去最高となりそうなのはなぜか」

(答え)

講義の中では、輸出の回復で製造業の収益が改善していることを指摘しました。

その後、よく考えてみたら、消費税の税収増加も影響していることが分かりました。消費税の増税は2019年10月からですので、19年度には年間税収の半分の効果しかありませんが、20年度は丸々1年分の増収となります。

(以上)

大正大学地域構想研究所 教授
小峰隆夫

本日の講義で、新たな発見・新たな気づきは何かありましたか？ あった場合は、具体的にどのような発見・気づきであったか記載してください。

10万円給付がほとんど意味のないものだったというのは驚きましたが、第二回目の給付が行われなかった理由だなと感じました。

10万円の給付が貯蓄にまわっていることが、データで見ることができて良かったです

外部経済、外部不経済についての理論的な対応について

リーマンショックとコロナショックの影響を比較した時に、第3次産業が今まで落ち込み経験がなかったため対応が上手いかなかったことを知れてよかった。

コロナ禍での経済への影響について、非製造業の落ち込みが大きいといったこれまでの不景気とは違った特徴があることなど知りました。また、消費の落ち込みによる可処分所得、貯蓄の増加したことなど予想外でした。

景気がお金がなくて落ち込んでいるのではなく、外出自粛したことによる要因が大きいという点。

日本経済が回復してきていることを具体的なデータをもとにした講義をいただき、とても分かり易くかつ興味深く拝聴できました。
特に資料6ページの表中、貯蓄率の部分はとても衝撃的でした。実際私も臨時給付金は貯蓄に回したところであり、このような行動が数値にも表れてくるところに経済学の面白さを改めて感じたところです。

本日の講義で、自地域の政策に何等か取り組めるヒントを得ることができましたか？ あった場合は、具体的にどのような点が政策のヒントになりましたか？

直接は結びつかないかもしれないが、経済の全体的な流れを知っておくことは大切だと思った。